

# 須佐地域の公共交通の課題と将来像(案) について

須佐地域意見交換会

平成31年2月

## 1.アンケート調査結果の概要

- ・萩市全体
- ・須佐地域

## 2.須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要

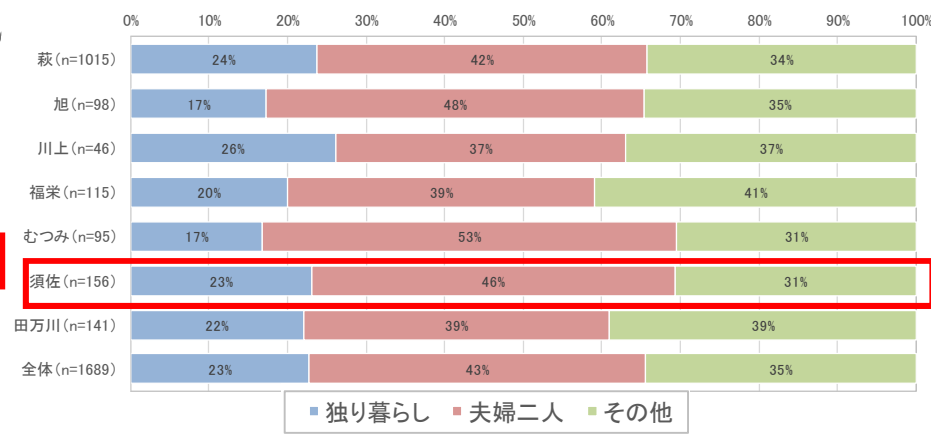
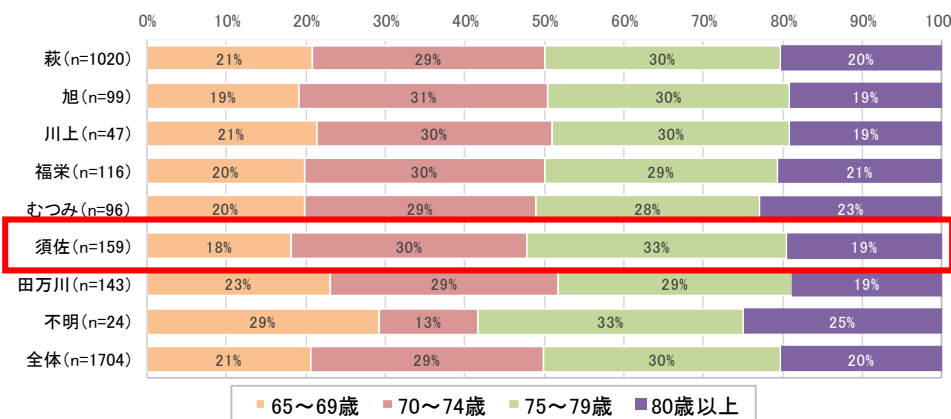
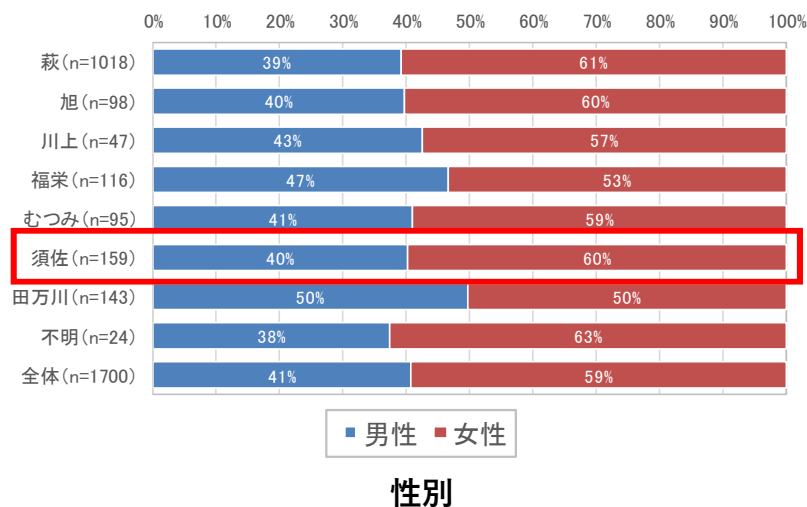
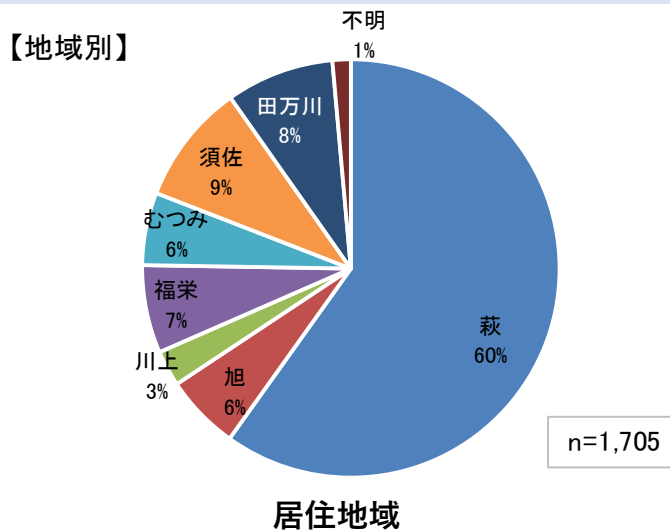
- ・JR山陰本線
- ・路線バス(防長交通、石見交通)
- ・ぐるっとバス

## 3.高齢者生活支援バスについて

## 4.須佐地域の公共交通の課題と将来像(案)について

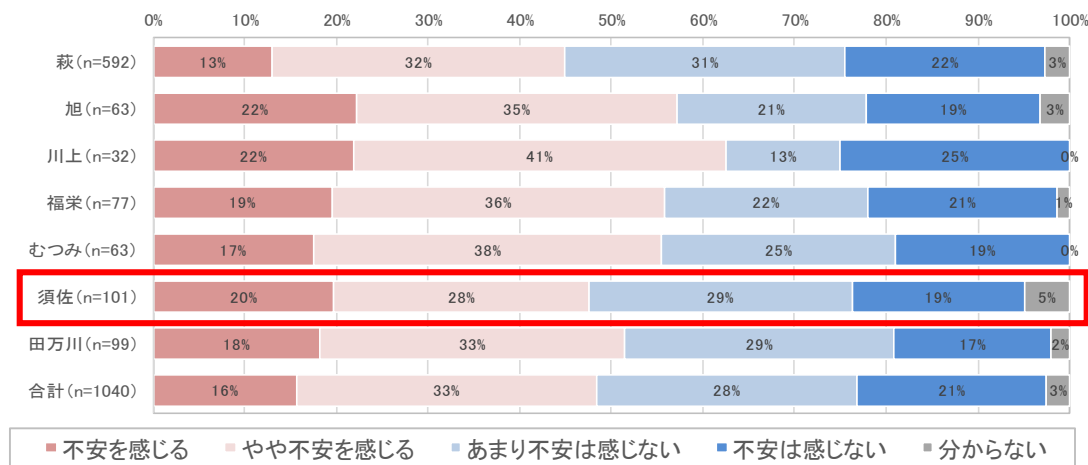
# 1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

- 市内に居住する65歳以上の方を対象にアンケート調査を実施しました。
- 無作為に抽出した2,000名の内、1,705名の方から回答が得られました。（回答率85%）
- 須佐地域は、無作為に抽出した170名の内、159名の方から回答が得られました。（回答率94%）
- 居住地域・性別・年齢・家族構成などの回答者の属性は、以下のとおりです。

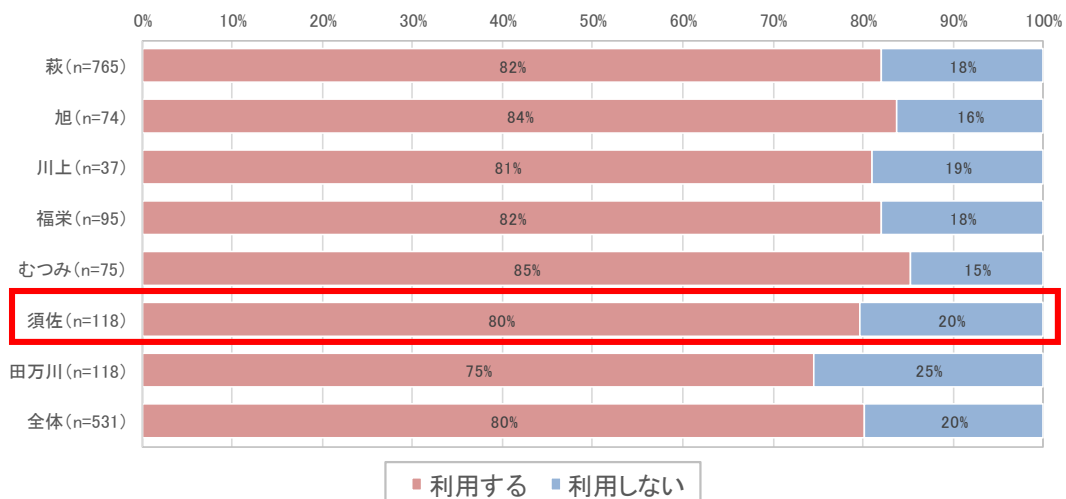


# 1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

- 自動車運転免許保有者の近い将来の運転への不安は、「不安を感じる」が2割、「やや不安を感じる」が3割であり、半数の方が近い将来の運転への不安を抱えています。
- 自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向は、「利用する」が8割を占めています。



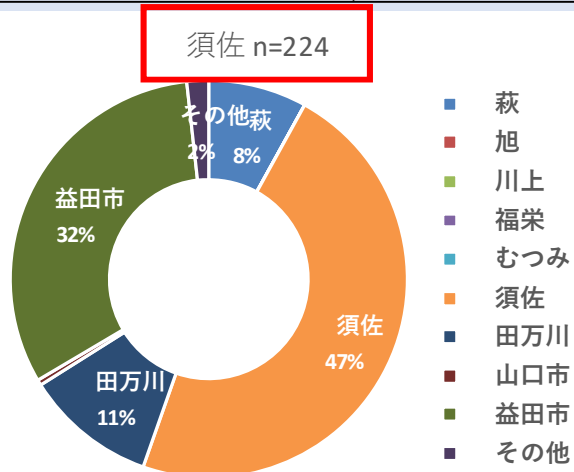
近い将来の運転への不安（自動車運転免許保有者）



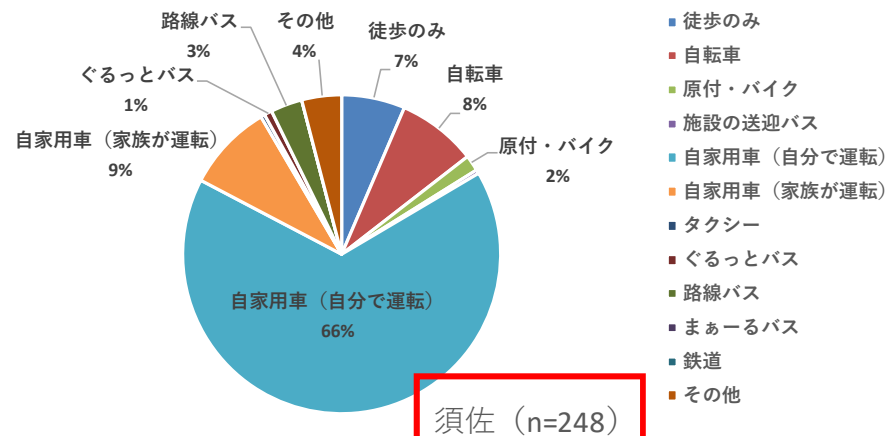
自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向

# 1. アンケート調査結果の概要（須佐地域）

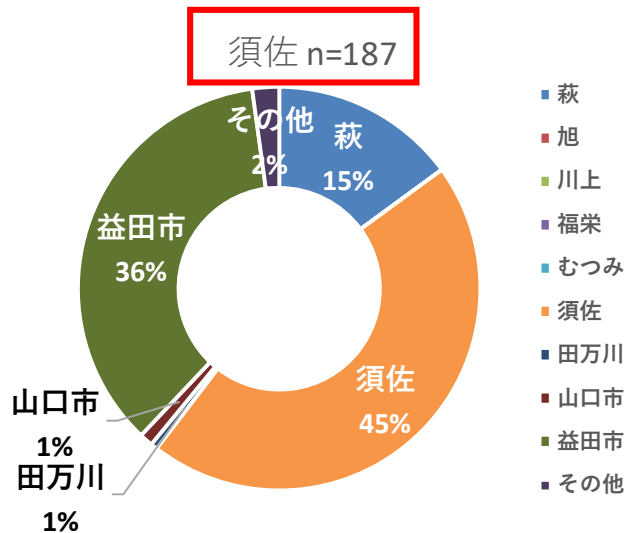
- 須佐地域の高齢者の買物や通院は、須佐地域内や益田市への移動が多くみられます。
- 交通手段は、「自家用車(自分で運転)」が6～7割、「自家用車(家族が運転)」が1割であり、公共交通（路線バス・鉄道・ぐるっとバス）の利用は1割にも満たない状況です。



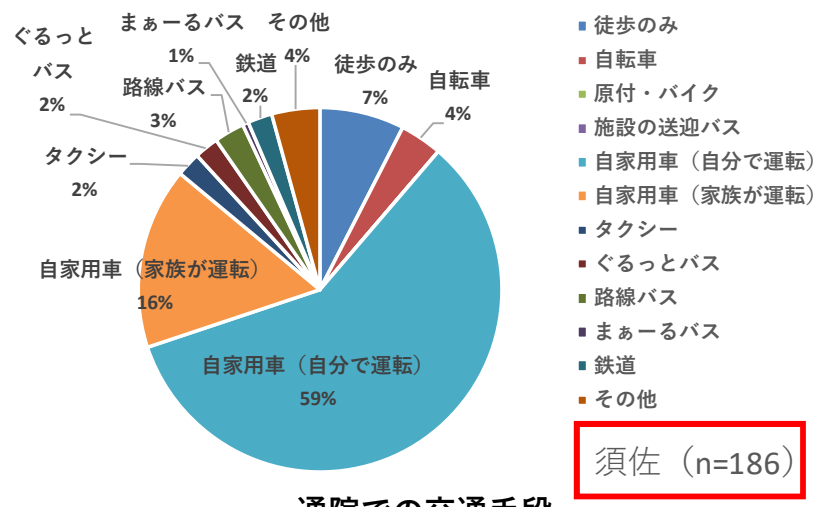
買物でよく利用する地域（お店）



買い物での交通手段



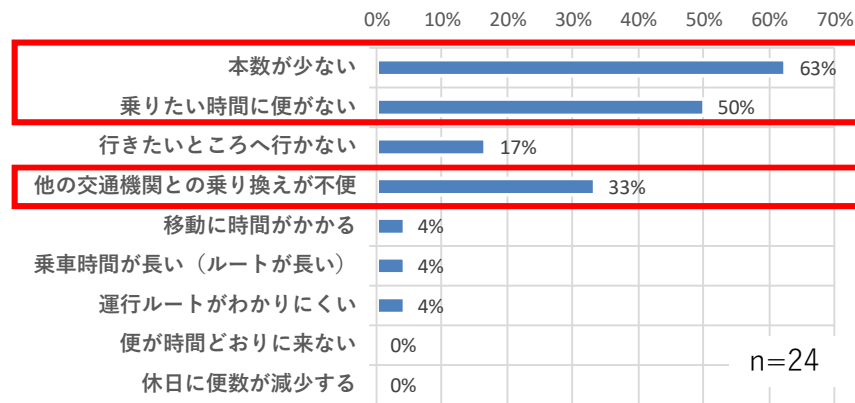
通院でよく利用する地域（病院）



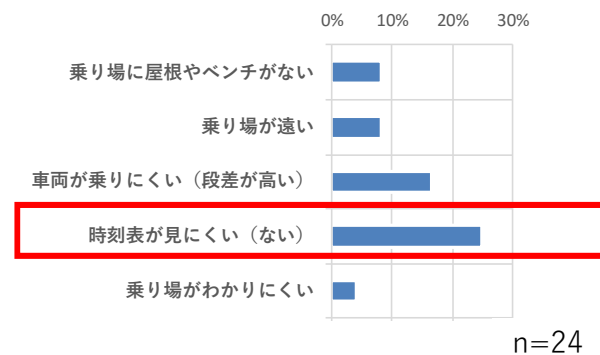
通院での交通手段

# 1. アンケート調査結果の概要（須佐地域）

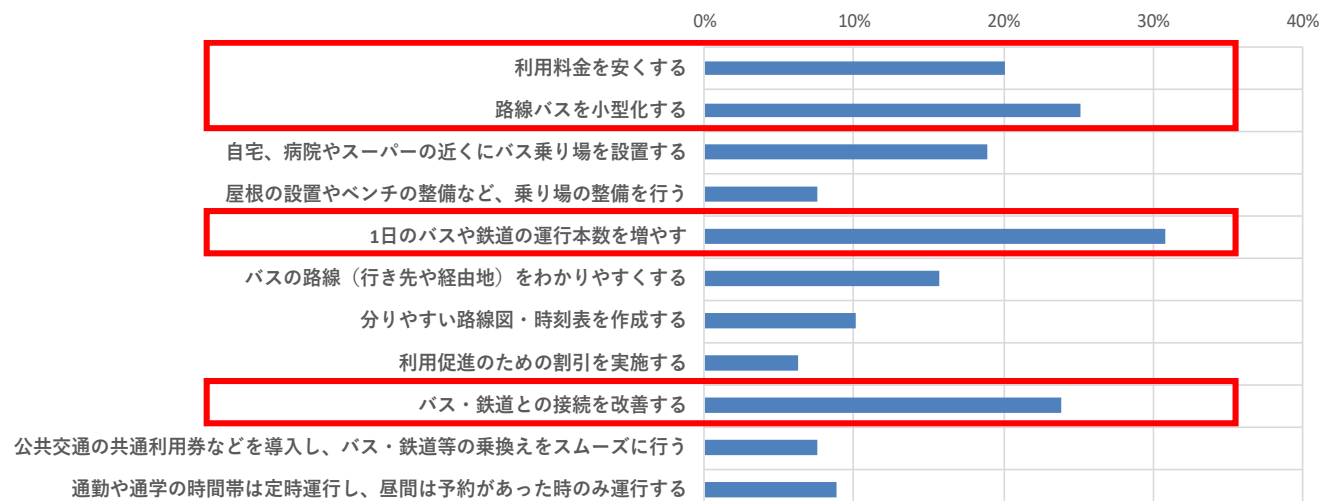
- 運行ダイヤ・ルートに関する不満点については、「運行本数が少ない」が6割、「乗りたい時間に便がない」が5割、「他の交通機関との乗換が不便」が3割でした。
- 車両や乗り場に関する不満点については、「時刻表が見にくい」が3割でした。
- 今後の公共交通の見直しについては、「バスや鉄道の運行本数を増やす」が3割、「バスを小型化する」が2割強、「バスと鉄道の接続を改善する」が2割、「料金を安くする」が2割でした。



公共交通の運行ダイヤ・ルートに関する不満点



公共交通の車両や乗り場に関する不満点



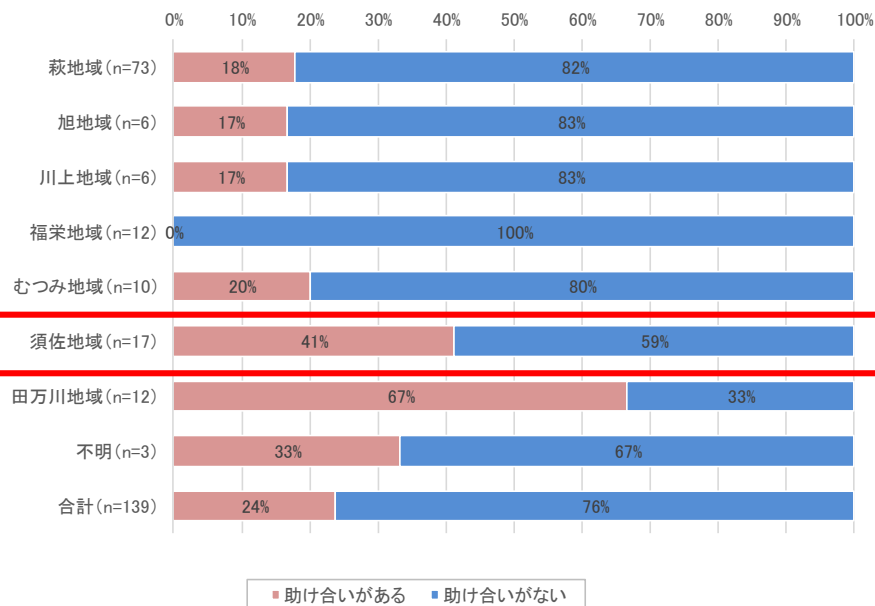
今後の公共交通の見直しについて

出典：住民アンケート結果（平成30年）

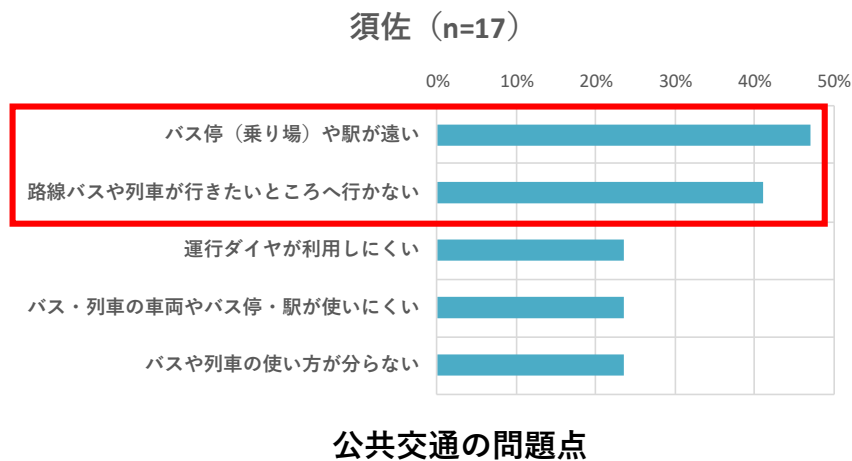
# 1. アンケート調査結果の概要（須佐地域）

## 【民生委員アンケート調査結果】

- 民生委員173名 回答者数145名（須佐地域民生委員回答者数17名）
- 須佐地域内での移動に関する助け合い（買物や通院支援等）は、「助け合いがある」が4割、「助け合いがない」が6割であり、他地域と比較して助け合いの割合が高くなっています。
- 公共交通の問題点としては、「バス停(乗り場)や駅が遠い」が5割、「路線バスや列車が行きたいところへ行かない」が4割でした。



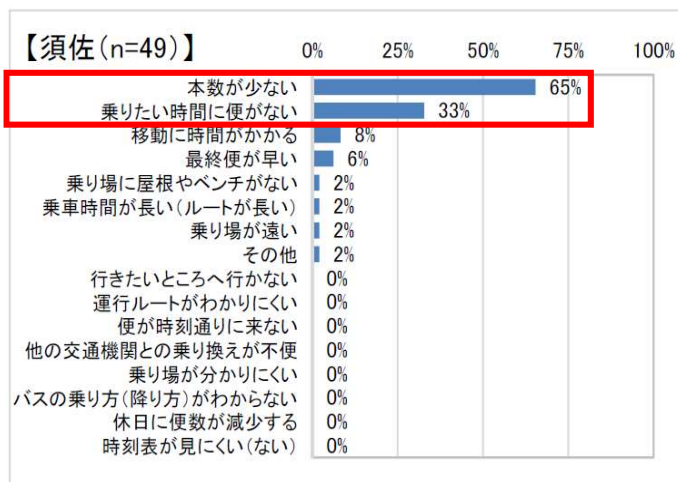
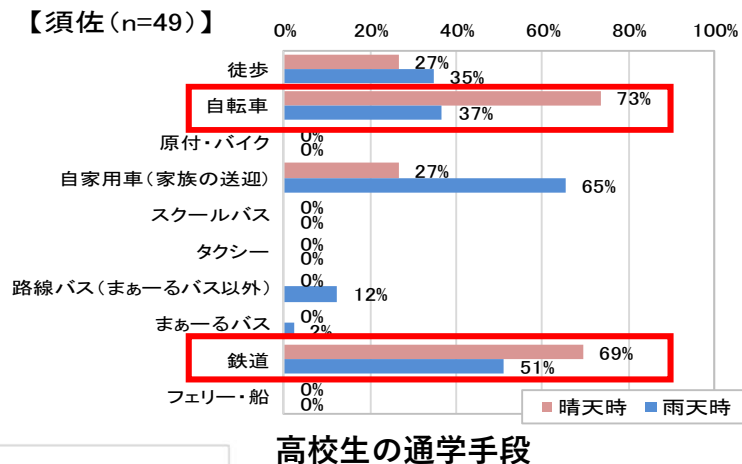
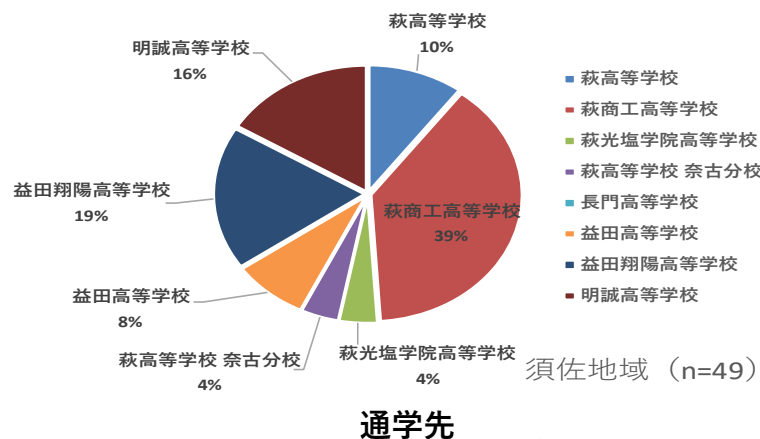
地域内での移動に関する助け合い（買い物や通院支援等）



# 1. アンケート調査結果の概要（須佐地域）

## 【高校生アンケート調査結果】

- 高校生986名 回答者数888名（須佐地域高校生回答者数49名）
- **高校生の通学先は、萩方面へ5割強、益田方面へ5割弱の学生が通学しています。**
- 通学手段は、「**鉄道**」と「**自転車**」が5～7割を占め、**鉄道の維持・確保が重要**となります。
- 公共交通に関する不満点については、「**運行本数が少ない**」が6割強、「**乗りたい時間に便がない**」が3割となっています。



高校生の通学手段

公共交通に関する不満点

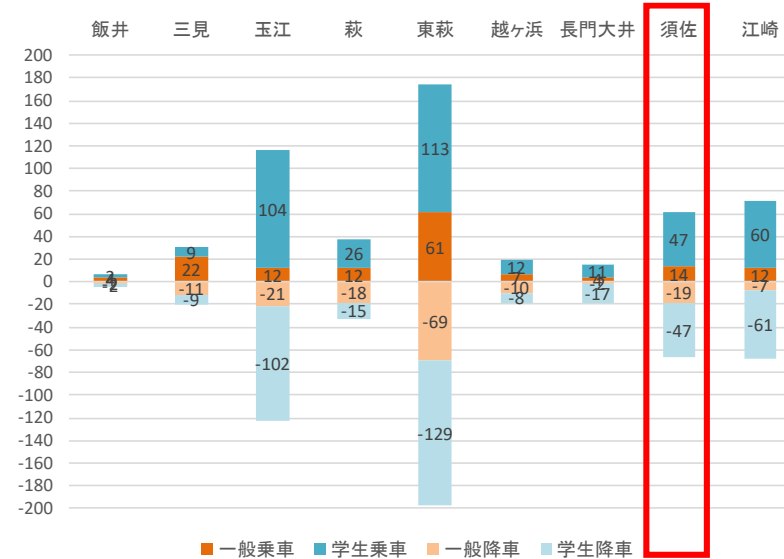


## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(JR山陰本線)

- JR須佐駅は、年間約3万人の利用があり、平日1日当たりの乗降者数は120人でした。
- 主な利用目的は、学生の通学利用となっています。

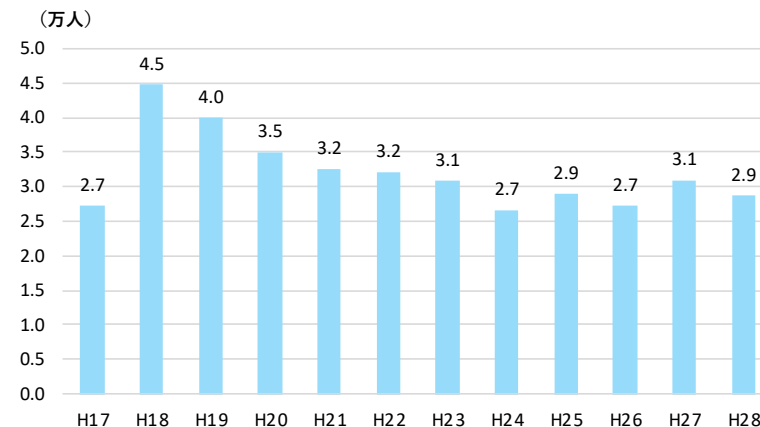
時	長門・萩方面	時	益田方面
6	長門 20	7	益田 03
7	長門 03	8	益田 24
8	長門 24	9	益田 21
10	東萩 05	14	益田 14
14	長門 00	17	益田 36
18	下関 19	18	益田 54
19	長門 41	20	益田 39
22	東萩 00	22	益田 36

JR須佐駅 時刻表



JR利用者数 (平日1日)

R乗込み調査結果



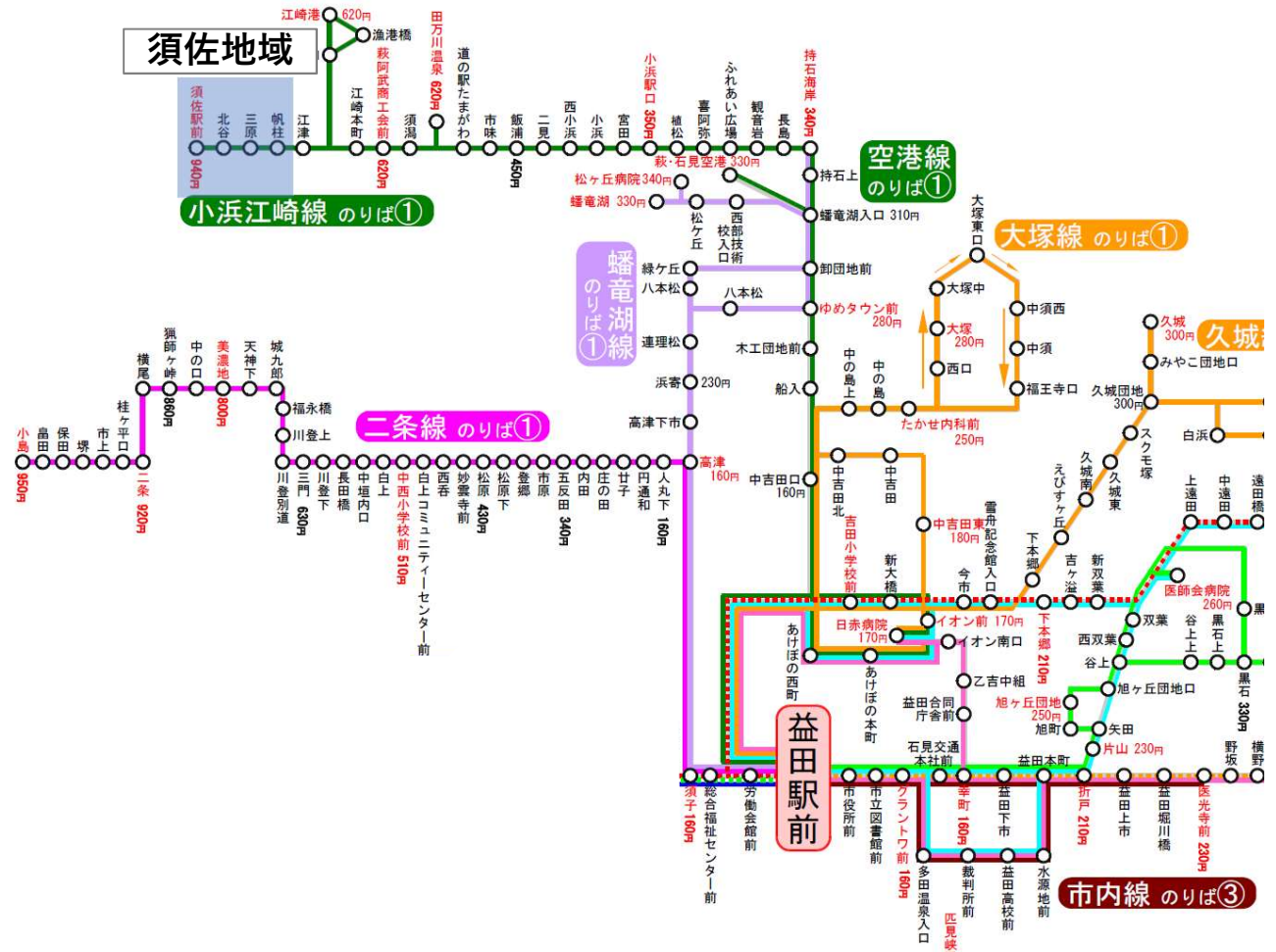
須佐駅の利用者数 (年間)

山興：山口県統計年鑑

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)



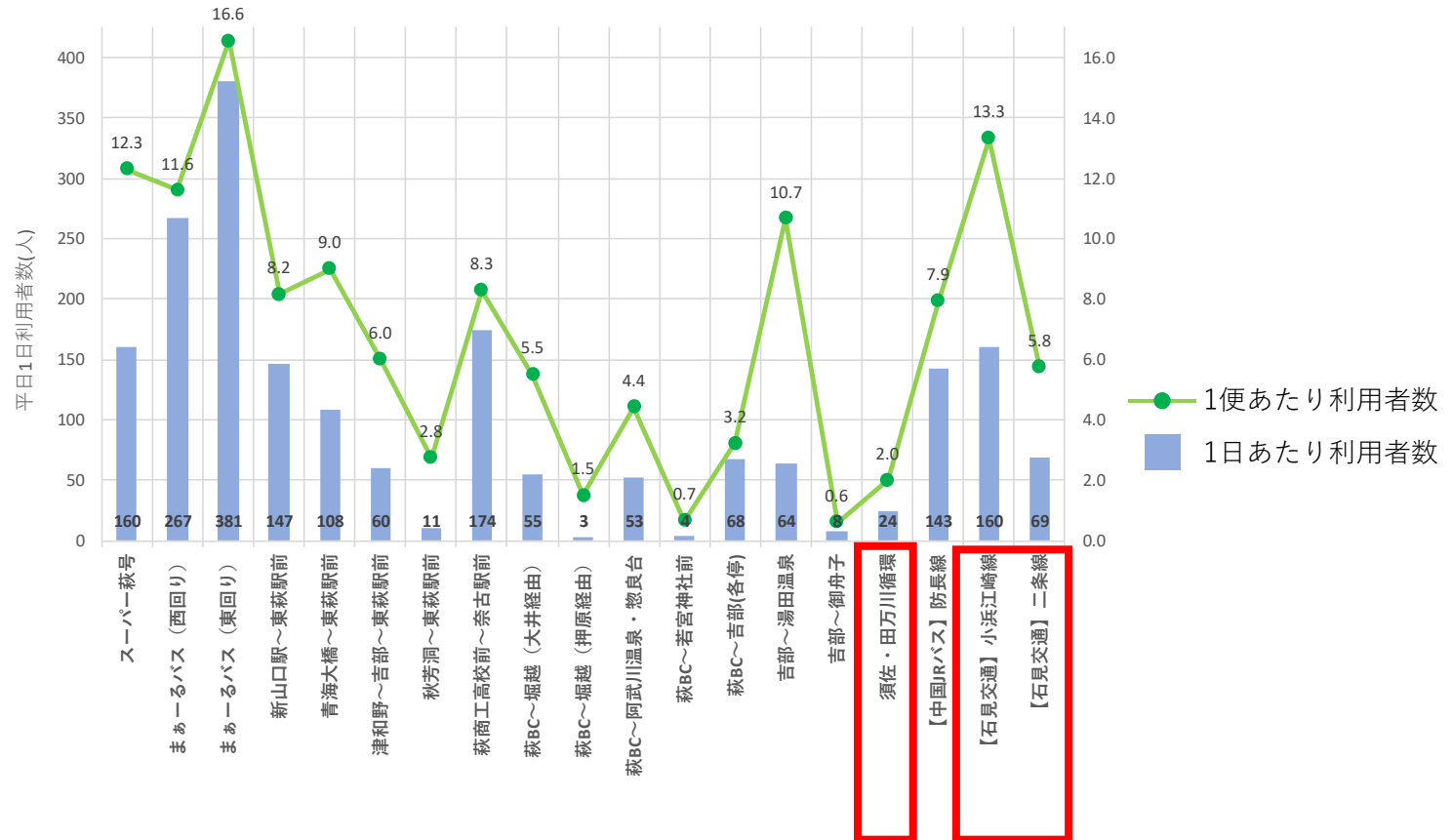
防長交通 路線図



石見交通 路線図

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

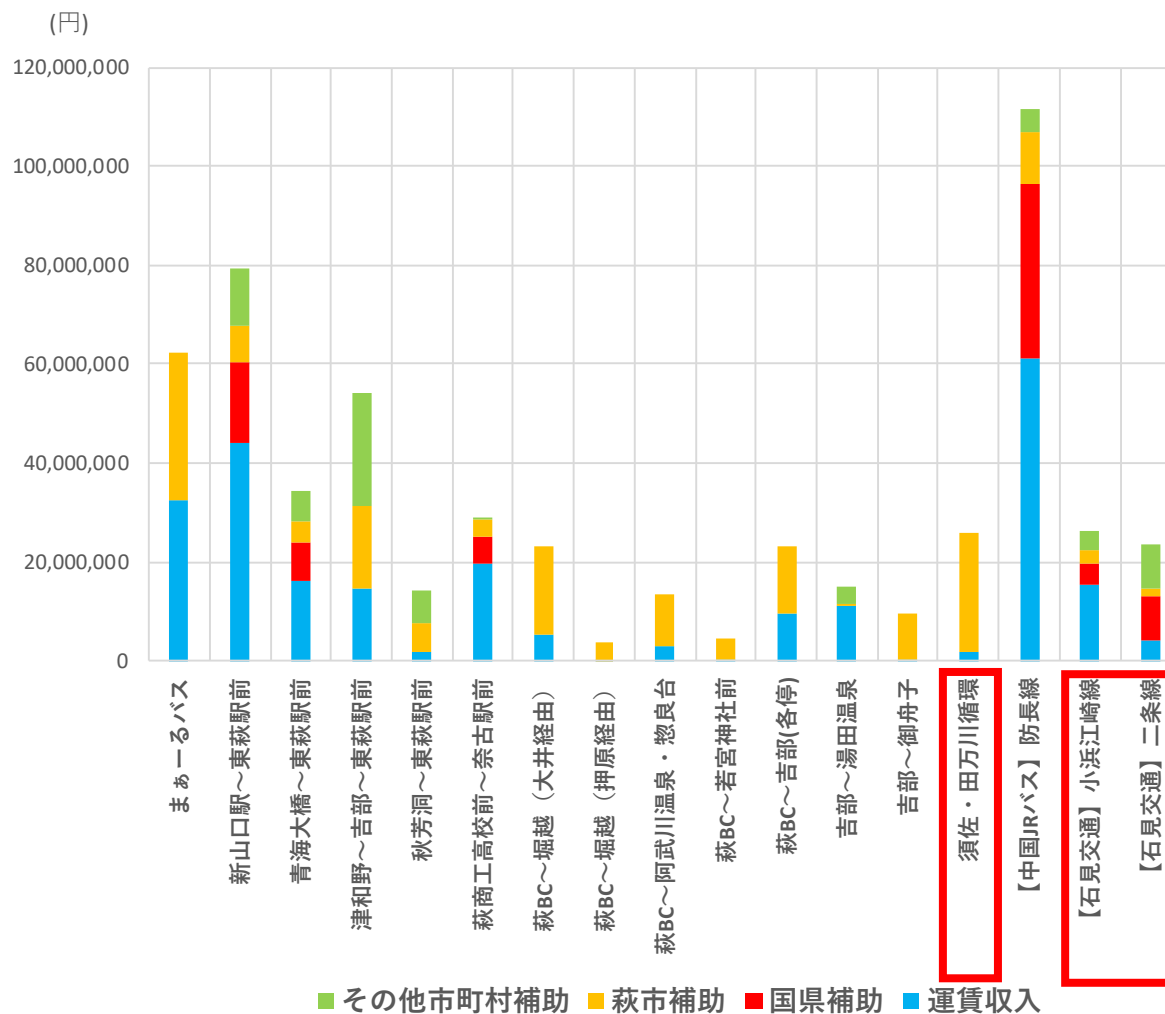
- 萩市全域の路線バスの平日1日あたりの利用者数、1便あたりの利用者数を整理しました。
- 須佐地域を運行する路線バスは、防長交通の「須佐・田万川循環線」及び石見交通の「小浜江崎線」「二条線」があります。
- **防長交通の「須佐・田万川循環線」は、1便あたりの利用者数が2人となっており、他の路線と比較して利用者数が少なくなっています。**
- 石見交通の「小浜江崎線」は13人/便と利用者数が多く、「二条線」も6人/便と一定の利用が見られます。



平日1日あたり利用者数及び1便あたり利用者数

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

- 萩市全域の路線バスの運賃収入及び国、県、萩市、その他自治体による補助金額を整理しました。
- 利用の低迷しているバス路線もあり、萩市の財政負担は増加傾向にあります。



運賃収入・補助金額(欠損額)

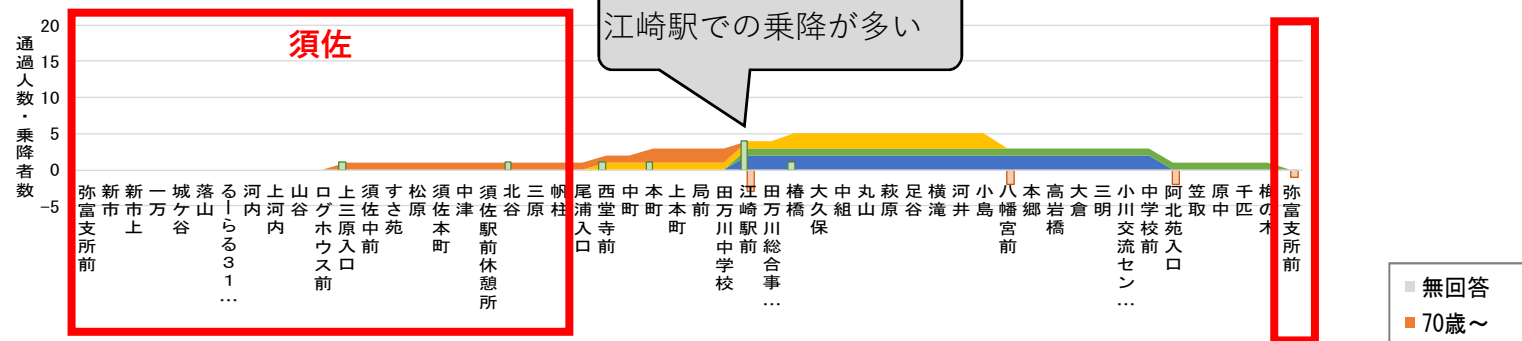
出典：萩市資料

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

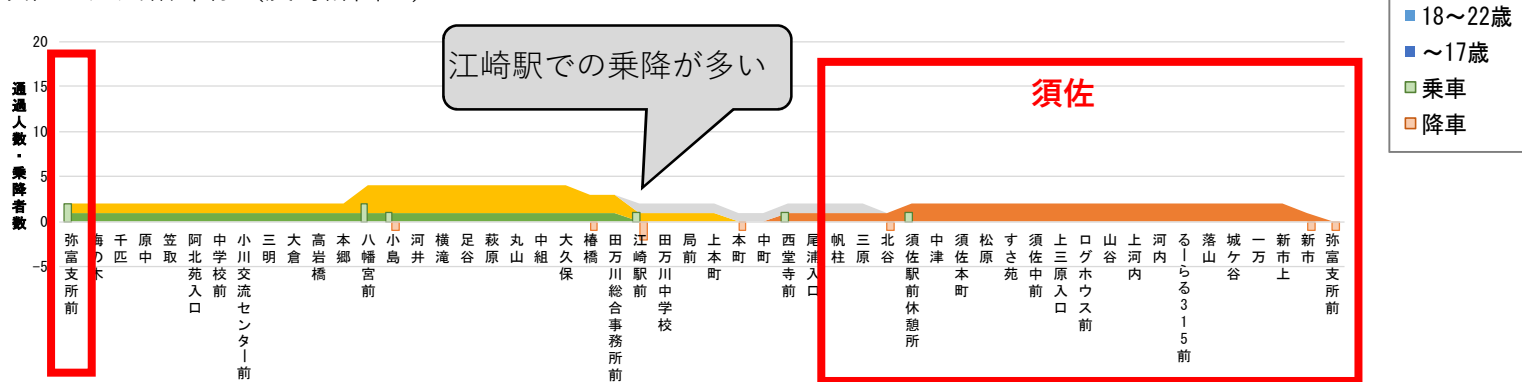
### 【防長交通 須佐・田万川循環線】

- 須佐・田万川循環線は、1日あたり12便運行しているものの、利用が低迷しています。(24人/日、2人/便)
- 時計回りルート、反時計回りルートなど様々なルートがあり、運行ルートが利用者にとって分かりづらいものになっています。
- 利用の低迷する須佐・田万川循環線に関しては、深刻な運転士不足も相まって、将来的に路線を維持することが困難になる可能性があり、今後、代替交通手段への見直しも視野に入れていく必要があります。

■ 須佐田万川循環線 (時計回り)



■ 須佐田万川循環線 (反時計回り)



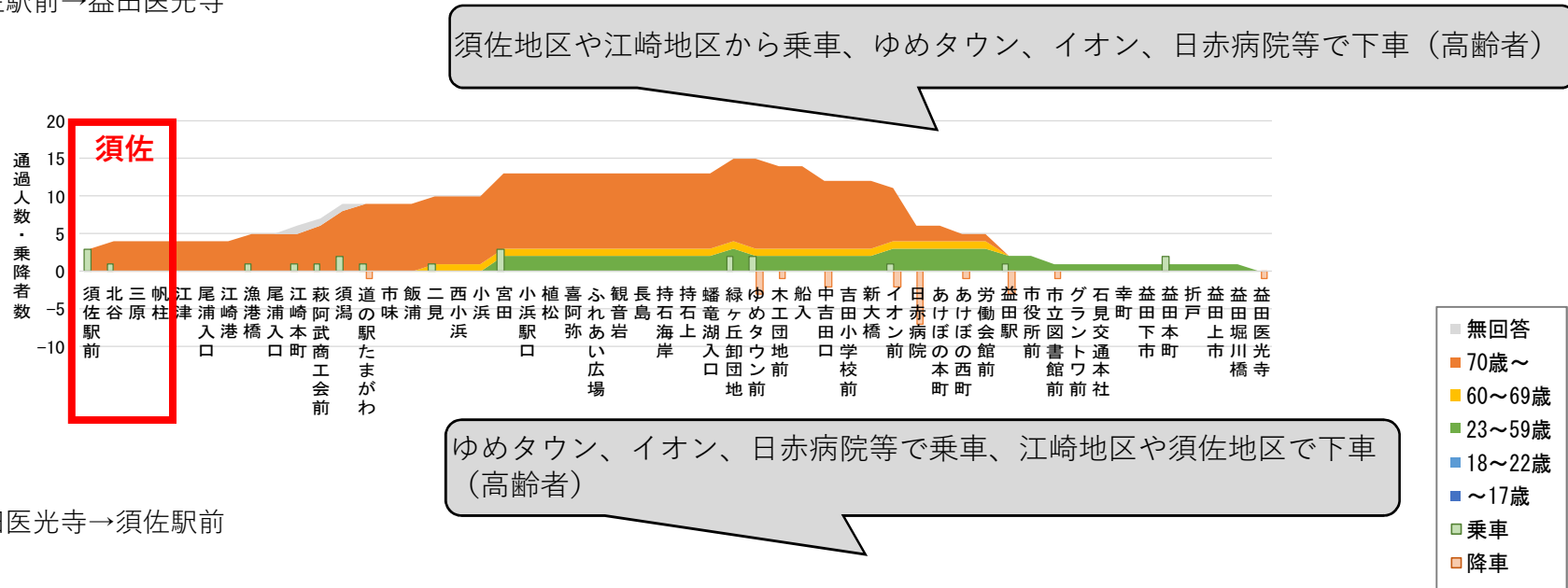
出典：路線バス乗込み調査 (H30)

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

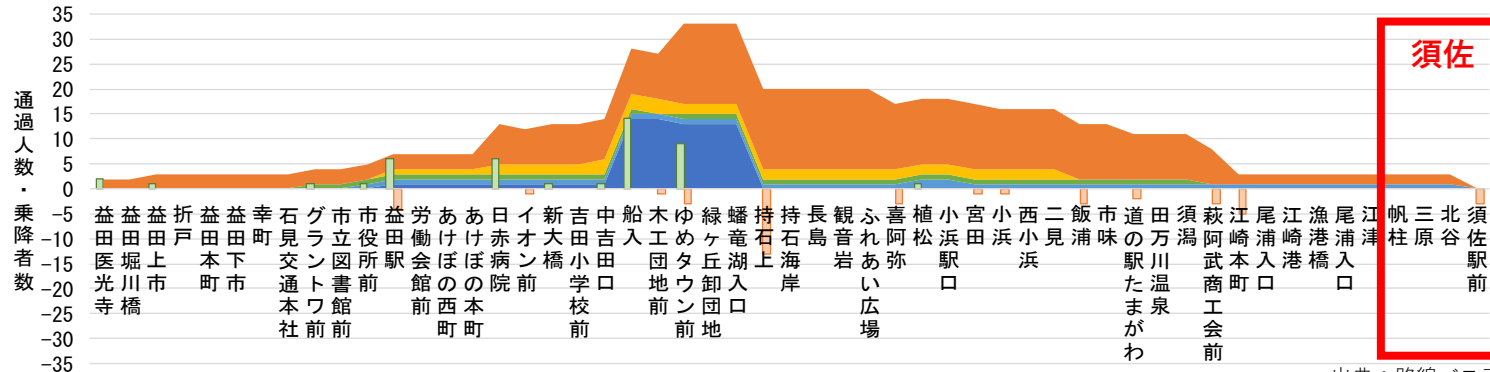
### 【石見交通 小浜江崎線】

- 小浜江崎線は、1日あたり12便運行していますが、内6便は江崎港止まりとなっています。
- 須佐地区や江崎地区から乗車して、ゆめタウン、イオン、日赤病院等で下車する高齢者の利用が多く、須佐地域及び田万川地域の高齢者の買い物や通院等の移動手段として重要な役割を担っています。

#### ■ 須佐駅前→益田医光寺



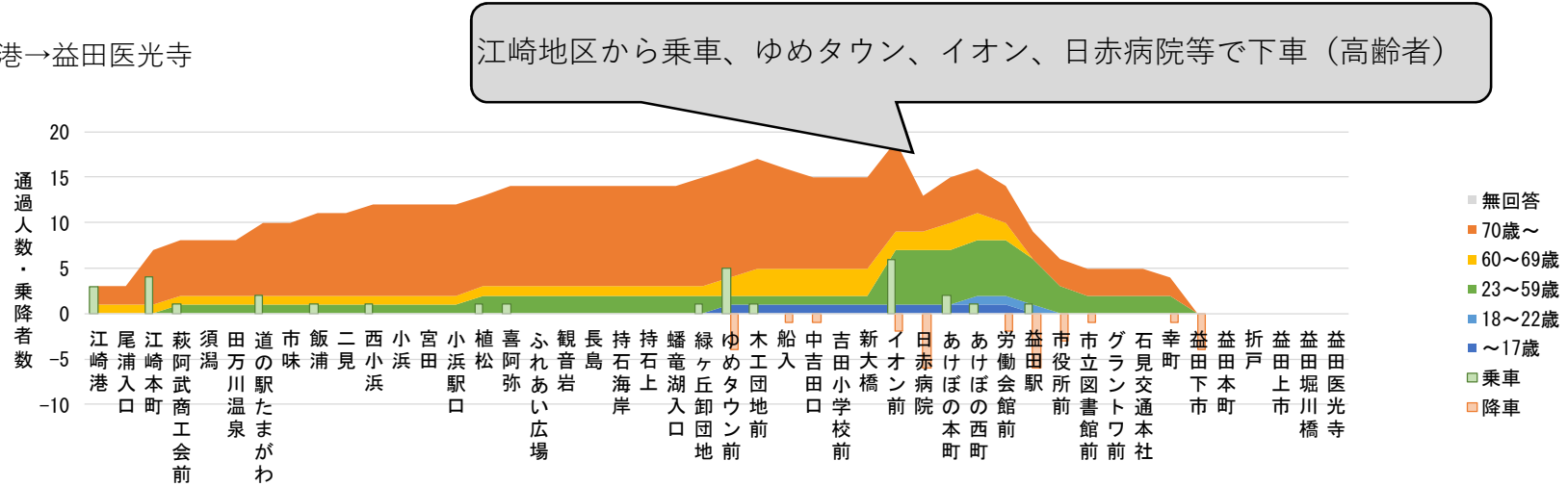
#### ■ 益田医光寺→須佐駅前



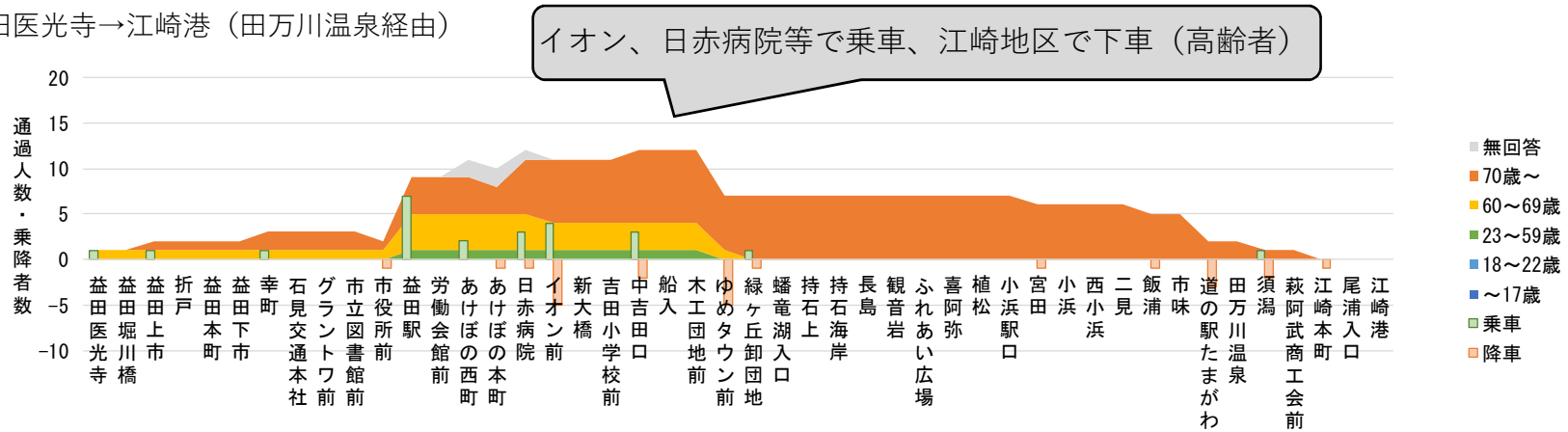
## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

### 【石見交通 小浜江崎線】

#### ■ 江崎港→益田医光寺



#### ■ 益田医光寺→江崎港 (田万川温泉経由)





## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 萩市は、交通空白地域における住民の域内移動手段の確保を目的として、「ぐるっとバス」を各地域で運行しています。
- 須佐地域のぐるっとバスは、須佐地区と弥富地区で運行しています。
- 須佐地区のぐるっとバスは、須佐タクシーが平成30年11月に休業したことから、12月から乗車対象区分を撤廃し、地区内全ての方がどの便でもご利用いただけるように変更しました。

平成30年12月から適用

# 上手に利用しましょう ぐるっとバス

《利用方法》

- 電話予約制。ご利用には、予約が必要です。
- 予約により、自宅と主要目的地（総合事務所、郵便局、医療機関、駅など須佐地区内の施設）を直接結び運行となっています。
- 須佐地区内すべての方がご利用可能です。
- 原則、自宅から目的地まで送迎します。

便	出発時刻
1便	7:50
2便	9:00
3便	11:00
4便	12:10
5便	14:00
6便	16:00

【運行日】 月曜日、水曜日、金曜日（週3日）  
※休日、祝日、年末年始（12月29日から1月3日）を除く

【利用料金】 無 料

【予約先】 興和産業（株） 電話 6-2026  
[受付時間 平日 7:30~16:00]

※乗車を希望する便の出発時刻30分前までにご連絡ください。但し、1便目については、原則、運行日の前日16:00（月曜の1便は前週金曜16:00）までにご連絡ください。

運行イメージ

※同一便利用者が多い場合、お迎えの時間が遅くなる場合があります。

※同一便利用で利用者の目的地が異なる場合は、行程の近い順に目的地へ送迎します。

【問い合わせ】 萩市須佐総合事務所 地域振興部門 電話6-2211

便	出発時刻
1便	7:50
2便	9:00
3便	11:00
4便	12:10
5便	14:00
6便	16:00

〔ご利用例〕

〈予約者〉

北谷地区の〇〇〈氏名〉ですが、ぐるっとバス12月5日水曜日2便（9時便）を利用し、自宅から総合事務所までお願いします。帰りは、3便（11時便）を利用し、駅から自宅までお願いします。

興和産業へ電話  
6-2026

〈受付者〉

はい、わかりました。9時●●分頃お迎えに行きますのでご自宅でお待ちください。帰りは、11時■■分頃 駅でお待ちください。

※利用者・利用便が重複した場合、お待たせすることがあります。

須佐地区のぐるっとバスのチラシ（H30年12月から）



## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 弥富地区のぐるっとバスは、週5日デマンド運行していますが、時間帯及び利用エリアが限定されています。

# ぐるっとバス 上手に利用してますか？

《利用方法》

- 電話予約制となっています。ご利用の際には、予約が必要です。
- 予約により、自宅と主要な目的地（弥富支所、郵便局、医療機関など）を直接結ぶ運行となっています。
- これまで利用が難しかった地区にお住まいの方など、弥富地区内すべての方のご利用が可能となっています。
- 原則、自宅まで送迎しています。

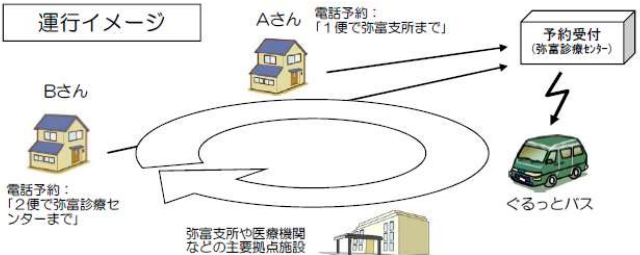
【運行日】 月曜日～金曜日（週5日）水曜日は午前中のみ  
※休日、祝日、年末年始（12月29日から1月3日）を除く

【利用料金】 無 料

【予約先】 弥富診療センター 電話 8-2489  
[受付時間 平日 8:30～17:00]

※乗車を希望する便の出発時刻の30分前までにご連絡ください。  
但し、1便目については、原則、運行日の前日までにご連絡ください。

運行イメージ



【問い合わせ】 萩市須佐総合事務所 地域振興部門 電話6-2211

【ルート別乗車区分表】

区分	運行方面	乗車対象行政区
D	弥富1区～6区 方面	弥富1区～6区
E	弥富7区～13区 方面	弥富7区～13区
F	小川 方面	田万川地域小川地区の一部

【運行時刻表】

便	出発時刻 (弥富診療センター発)	運行日				
		月	火	水	木	金
1便	8:40発	D (1～6区方面)	E (7～13区方面)	E (7～13区方面)	F (小川方面)	D (1～6区方面)
2便	9:40発	E (7～13区方面)	F (小川方面)	D (1～6区方面)	D (1～6区方面)	E (7～13区方面)
3便	11:30発	D (1～6区方面)	E (7～13区方面)	E (7～13区方面)	F (小川方面)	D (1～6区方面)
4便	12:30発	E (7～13区方面)	F (小川方面)	D (1～6区方面)	D (1～6区方面)	E (7～13区方面)
5便	14:30発	F (小川方面)	D (1～6区方面)	/	E (7～13区方面)	F (小川方面)
6便	16:20発	F (小川方面)	D (1～6区方面)	/	E (7～13区方面)	F (小川方面)

◆各便のバス運行時間帯は、上記のそれぞれの出発時刻から約45分間であり、希望（予約申込）に応じ、その時間内であれば、柔軟に運行します。

【ご利用例】

〈予約者〉

6区の〇〇（氏名）ですが、ぐるっとバス 5月14日 木曜日 2便を利用し、自宅から弥富支所までお願いします。帰りは、4便を利用し、診療センターから自宅までお願いします。

〈受付者〉

はい、わかりました。9時50分頃お迎えに行きますのでご自宅でお待ちください。帰りは、12時30分頃 診療センターでお待ちください。

診療センター  
☎電話  
8-2489

## 2. 須佐地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 須佐地域と田万川地域では、3台のぐるっとバスを運行し、**診療所への通院や買物支援**などに利用されています。
- 弥富地区のぐるっとバスと田万川地域のぐるっとバスは、小川地区で運行区域が重複しています。
- 須佐地区のぐるっとバスは、平成30年12月から乗車対象区分を撤廃し、地区内全ての方がどの便でも利用できるようになり、利用者数が増加しました。

地域	地区	運行形態	運行方面	運行日	運行回数	H30実績	H29実績	H28実績	H27実績
須佐	須佐	デマンド	押谷・までかた・中畑方面	週3日	6便	1.2	1.0	1.0	1.5
			高山・北谷・野頭方面	週3日	6便	1.5	1.4	1.4	1.4
			帆柱・堀田・青葉台方面	週3日	6便	2.0	2.2	2.2	1.9
	弥富	デマンド	弥富1区～6区	週5日	2便	1.6	1.5	1.6	1.7
			弥富7区～13区	週5日	2便	2.2	2.3	2.5	2.0
			小川	週4日	2便	2.3	2.4	2.1	2.4
地域	地区	運行形態	運行方面	運行日	運行回数	H30実績	H29実績	H28実績	H27実績
田万川	江崎	デマンド	上田万	週3日	2便	0.0	2.0	1.7	1.8
			下田万	週3日	2便	2.5	1.6	2.1	2.3
			江崎	週3日	2便	1.1	1.3	2.1	2.1
	小川	デマンド	上小川	週4日	1-2便	1.4	1.3	1.4	1.3
			中小川	週4日	1-2便	1.6	1.8	1.5	1.3
			下小川	週4日	1-2便	2.2	2.4	2.1	3.1

ぐるっとバスの運行状況と利用状況

※H30実績：H30年4月～H31年1月の運行記録

◆利用実績

30年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
押谷・までかた・中畑方面	1	3	2	1	2	2	6	4	32				53
高山・北谷・野頭方面	4	12	6	9	12	7	11	4	22				87
帆柱・堀田・青葉台方面	36	29	27	22	34	18	41	35	55				297
計	41	44	35	32	48	27	58	43	109				437
29年度実績	47	48	60	49	41	47	48	52	63	43	37	41	576

運行形態の変更前

変更後

(単位:人)

平成30年度の須佐地区のぐるっとバスの利用者推移

### 3. 高齢者生活支援バスについて

- 須佐地域では、住民主体による高齢者生活支援サービスとして、以下のサービスが実施されています。
- サロン活動での公共交通の利用や、住民主体の移動手段の推進により、持続可能な移動手段を確保することが必要です。

地域	地区	訪問型サービス（家事援助等）	通所型サービス（サロン活動等）	車両
須佐	須佐	名称：もやいサービス 実施団体：NPO須佐元気なまちづくりネット 活動内容：通院、買い物支援、住居清掃、調理、ゴミ出し等 実施回数：随時	名称：須佐ふれあい広場 実施団体：須佐地区社会福祉協議会 活動内容：サロン活動、世代間交流等 実施回数：月1回	ダイハツ タント
	弥富	名称：ちょっとサービス 実施団体：弥富でっぴん会 活動内容：買物、雪かき、移動支援等 実施回数：随時	名称：ちょっとひと休み 実施団体：弥富でっぴん会 活動内容：サロン（団体当番制）、外出支援 実施回数：月5回	日産 セレナ

住民主体による高齢者生活支援サービス

## 4. 須佐地域の公共交通の課題と将来像(案)について

### 【①須佐地域・田万川地域一体となった総合的な交通体系の構築】

- 須佐地域及び田万川地域では、買物や通院などの生活圏が重なっている部分が多く、利用の低迷する防長交通の須佐・田万川循環線に関しては、深刻な運転士不足により、将来的に路線を維持することが困難になる可能性もあり、また、タクシー事業者の休廃業への対応など、公共交通に関する課題も両地域に跨ったものとなっています。そうしたことから、須佐・田万川地域一体となった総合的な交通体系とすることで、住民の日常生活を支える生活交通網を構築します。

### 【②幹線と支線の役割分担の明確化や交通結節機能の強化等による効果的な運行体系の構築】

- J R 山陰本線や石見交通は、萩地域や益田市への広域的な幹線として、須佐駅などの交通結節点で地域内移動を担う支線と接続します。高齢者や高校生などの移動実態と公共交通への要望等を踏まえ、広域幹線とぐるっとバスなどの支線の役割分担の明確化を図り、交通結節機能の強化等（乗継環境や待合環境の整備など）により、また、広域幹線や支線の運行形態も含めて、住民ニーズに応じたより効果的な運行体系を構築します。

### 【③様々な交通体系の組み合わせによる住民移動手段の確保】

- 交通事業者による広域幹線交通やぐるっとバス、自家用有償旅客運送、さらに住民の支え合いによる交通などの地域コミュニティ交通等の様々な交通体系を効果的に組み合わせることにより、交通事業者・行政・住民の協働による新たな公共交通網を形成し、暮らしを支える利用しやすい、持続可能な移動手段を確保します。

### 【④利用しやすい公共交通と利用促進】

- 高齢化が進展する中で、利用者に分かりやすく乗りやすい公共交通体系を構築するとともに、とりわけ周辺部における路線バス利用に係る運賃が割高であることから、福祉施策とも連携し、公共交通利用者の負担軽減策や全ての公共交通について、持続可能な移動手段を確保するため、利用者負担のあり方を検討します。